

ビーチコーミング

鹿児島は、太平洋や東シナ海、錦江湾と広く海に接しています。日々打ち寄せる波に乗って海岸や砂浜にはどんな漂着物があるのかビーチコーミングしてみました。



吹上浜

日本最長の砂丘で、外洋に面しているため、外国からの漂着物がみられます。



重富海水浴場

錦江湾奥部にあり、干潮時には大きな干潟が広がります。近くに松林が広がっています。



磯海水浴場

市街地から近く、毎年多くの海水浴客で賑わいます。ウミガメが産卵したこともあります。

Let's クラフト



拾ったものは、工作の素材として活用できます！自由研究におすすめ♪

<p>ハスノハカシパン</p> <p>ハスノハカシパンは、ウニの仲間で、平べったいのが特徴です。生きているときは黒っぽい色ですが、死ぬと白くなります。</p>	<p>エビの殻</p>	<p>松かさ</p>	<p>軽石</p> <p>どの海岸でも軽石を見つけました。大きさも形も色もさまざま。その軽さにびっくり！簡単にけずれるので工作の材料にもなりそう！</p>	
<p>コウイカの骨</p> <p>吹上浜でたくさん拾いました。イカの甲には硬い骨が入っていますが、種類によってこの形が違います。拾った骨には歯型がついていました。魚に食べられて、硬い骨だけが流れ着いたのかな。</p>	<p>モクスガニの殻</p> <p>モクスガニは、別名山太郎ガニ。鹿児島でも食べられています。秋ごろに川から河口へ移動して、海で産卵します。生まれた子どもは海で餌をたくさん食べて成長して、その後川へ上ります。この殻は脱皮殻かな。</p>	<p>タカラガイの仲間</p>	<p>二枚貝のなかま</p>	
<p>サンゴ</p>	<p>ツメタガイ</p>	<p>流木</p>	<p>巻貝のなかま</p>	<p>トゲモミジガイ</p> <p>からからに乾燥したトゲモミジガイ(ヒトデの仲間)をたくさん見つけました。磯と重富の海岸とは種類が違うヒトデが見られ、同じ錦江湾でも海の環境が少し違うのかも。</p>
		<p>壊れた傘</p>	<p>ビーチグラス</p>	
	<p>サンダル</p>	<p>ペットボトル</p>	<p>つぶれた空き缶</p>	<p>ピン</p>
	<p>餌カゴ</p>	<p>ルアー</p>		

▲ちなみに、未来館の展示ゾーンIIには、九州の海岸に流れ着いた漂着物が展示されています。

場所によって漂着物に違いがあることに気づいたり、普段の私たちのくらし方を見直さきっかけにもなるビーチコーミング。この夏、近くの海岸に出かけてみませんか。

☆ビーチコーミングとは
海岸(ビーチ)に流れ着いた漂着物を、櫛(コーム)で梳くように拾い集めること。